

豚

畜舎構造・環境

日常の飼養管理や牛の観察を行い易い構造にするとともに、適切な排せつ物処理が可能な構造にする必要がある。

- ①簡単に清掃・消毒ができること。
- ②豚房の床は排水がよく、床の表面が乾燥しやすいこと。
- ③敷料を用いる場合は、清潔で乾燥したものを使用することが望ましく、適切に追加・交換を行い、床が乾燥している状態を保つ必要がある。
- ④換気設備等の空気を排出する箇所では、悪臭対策を講じること。
- ⑤畜舎や堆肥舎等の建物は敷地境界から3m以上の空地を設けること（畜舎と畜舎の間隔も3m以上の空地を設けること）。
- ⑥敷地境界には植栽（ニオイヒバ等）をするなど、環境美化に努めること。
- ⑦糞尿処理施設（堆肥舎・浄化槽等）を設置する場合は、「堆肥化施設設計マニュアル」（中央畜産会、2000）、「家畜ふん尿処理施設の設計・審査技術」（畜産環境整備機構、2004）等を参考に十分な計算をして余裕のある容量を確保すること。

飼養スペース

必要な飼養スペースは、飼養される豚の品種（系統）や体重、豚舎の構造、換気の状態、飼養方式、1群当たりの飼養頭数等によって変動するため、適切な水準について一律に言及することは難しいが、目安として下記のとおりとする。

表 1 頭当たりの必要面積

	体重	必要面積
育成・肥育豚	30kg	0.32㎡
	70kg	0.57㎡
	110kg	0.77㎡
繁殖雌豚	200kg	1.15㎡
種雄豚	-	単飼で体重に応じたスペース

出典：畜産技術協会（2011） アニマルウェルフェアの考え方に対応した家畜の飼養管理指針

豚舎等の清掃・消毒

豚にとって快適な環境を提供することは、病気の発生予防にもつながることから、建物、器具等、豚と接触する部分については洗浄及び消毒を行うこととする。また、豚舎に豚がいる間は、施設及び設備を清潔に保つこととする。さらに、オールイン・オールアウトを行う場合は、新しい群の導入前に洗浄、消毒及び乾燥を行うこととする。排せつ物は、適切に取り除き、豚にとって快適な環境を提供することとする。清掃に伴う排水についても適切に処理し、河川や地下水を汚染しないよう留意することとする。

設備の点検管理

換気、給餌・給水、除ふん等の自動化機器設備の故障は、豚の健康や飼養環境に悪影響を及ぼすため、適切に維持し、管理する必要がある。換気等の設備が正常に作動しているかどうかを少なくとも1日1回は点検することとする。

堆肥攪拌機、固液分離機、浄化槽等の糞尿処理施設についても同様である。特に浄化槽については十分な維持管理ができていないと悪臭、水質汚濁等の環境問題を引き起こすことから、「畜産農家のための汚水浄化処理施設窒素対応管理マニュアル」（畜産環境整備機構、2013）等を参考にSV30や透視度等により日常点検するとともに、専門機関による点検や最終処理水の水質分析を年に1回以上実施することが望ましい。